



関川泰寛 [著] (日本基督教団 大森めぐみ教会牧師)

キリスト教古代の思想家たち 教父思想入門

2 月初旬刊行予定

聖書の証言に立ち、継承した伝統を受け継ぎ、かなり自由に福音理解を展開した教父たち。また何が正統的信仰かを同時に問いかけながら各時代を生き抜いてきた。この生き方やその思索に私たちが学ぶ大きな課題が見えてきます。豊かな資料を駆使しながらも、分かりやすい入門書として丁寧に構成された関川先生渾身の書。

- | | |
|---|--|
| 1 教父とは | 13 砂漠の修道士たちの世界 — アタナシオスの『アントニオス伝』の魅力 |
| 2 教父を知る意義 | 14 古代教父と礼拝、 sacrament と説教 |
| 3 教父の生きた時代と世界 | 15 ニカイア論争と信条の成立 |
| 4 初期の教父 — 使徒教父と弁証家 | 16 信仰と敬虔に生きる — バシレイオスの思想の深み |
| 5 初期の教父たちが戦った宗教運動 — グノーシス主義、マルキオン、モンタノス主義 | 17 エルサレムのキュリオスの時代 — 4 世紀半ばのエルサレムと洗礼、聖餐 |
| 6 教父と正典の形成 | 18 カッパドキアの教父たちと三位一体論の形成 |
| 7 エイレナイオスとテルトゥリアヌス | 19 アウグスティヌスの生涯と信仰 — 遍歴から確信へ |
| 8 殉教者キプリアヌス | 20 母なる教会と三位一体論 |
| 9 アレキサンドリア学派 | あとがき |
| 10 キリスト教公認と教父 | 参考文献表 |
| 11 古代教父の救済論 — アタナシオスの神化論をめぐる | |
| 12 ギリシア教父と哲学 — 悪の問題とのかかわりで | |

著者紹介 関川泰寛 (せきかわ・やすひろ) 1954 年、東京生まれ。慶応大学経済学部を卒業後、エディンバラ大学で神学を学び、東京神学大学大学院を修了後、東北学院大学助教授、東京女子大学講師、国際基督教大学講師、東京神学大学教授、泉高森教会牧師、十貫坂教会牧師を経て、2013 年より大森めぐみ教会牧師。

主な著書 『ニカイア信条講解 — キリスト教の精髄』(1995) 『聖霊と教会 — 実践的教会形成論』(2001) 『アタナシオス神学の研究』(2006) 『ここが知りたいキリスト教 — 現代人のための道案内』(2010) **主な訳書** クランフィールド『使徒信条講解』(1998) ブロックス『古代教会史』(1999) N. ブロックス『古代教会史』(1999) ファーガソン『共同体のキリスト教的基礎』(2002) マクグラス『キリスト教思想史入門 — 歴史神学概説』(2013) スティッド『古代キリスト教と哲学』(2015) **主な共訳書** オリゲネス『イザヤ書説教』(2018) カルヴァン『アモス書講義』(2019)



新書判・304 頁・1,650 円 (税込)
1,500 円 + 税 ISBN978-4-909871-84-8 C0216